

1. 単元について

対 象 学 年	中学校 第2学年
学 習 指 導 要 領	聞くこと(ウ) 話すこと(エ)
単 元 名	Speaking Plus 3 (全3時間) NEW HORIZON English Course 2
単 元 目 標	相手を誘って週末の計画を立てるために、互いの予定や興味を踏まえながら行き先や待ち合わせ場所、時間などを積極的に相談して決定しようとする。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 相手を勧誘したり待ち合わせの約束をしたりする表現を、つなぎ言葉を工夫することで、場面に応じて適切に用いることができる。 (表現の能力) 週末の計画を相談して決めるために、分からない点を聞き返したり確認したりしながら、相手の希望や要求を正しく理解することができる。 (理解の能力) Would you like ~? といった丁寧な勧誘表現や Where shall we ~?、Let's meet in front of ~.などの待ち合わせの約束をするのに有効な表現の用法について正しく理解している。(言語や文化についての知識・理解)
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元の指導過程の工夫 ・単元の見通しをもたせ、言語材料を獲得する第1・2時を TT で指導にあたり、運用力を高める終末の第3時を「習熟度別少人数」の形態で学習を進める。それによって個に応じた指導を一層展開する。第3時では、対話を進める上で必要な表現力の定着度によって基本と発展の2つのコースを設定する。両コースの課題(タスク)は同じものを掲げながら、対話の際に拠り所となるフレームのもたせ方に差を設けている。 ・既習の Speaking Plus 1, 2 において扱われた Could you ~? や Excuse me. といった丁寧に依頼する表現を確認した上で、本単元で取り上げる Would you like ~? の丁寧な勧誘表現とつなげながら、関連性をもって指導する。単位時間の指導過程の工夫 ・Pardon? Let me see. How about ~? など対話を続ける上で有効な表現については、各単位時間の導入で行う『イメージーションゲーム』等を通して継続的に指導する。 ・終末の活動で、フレームから離れたより自由度の高い対話をさせるために、基本文型を含んだモデルダイアログを、原稿なしでも言えるようになるまで繰り返し指導しておく。 言語活動の工夫 ・実際に週末の予定をペアで相談して決める対話(タスク活動)をさせることで活動への興味・関心を高め、言語活動の必然性が生まれるよう工夫する。そのために、設定する場面や条件など、話す相手との情報の差を与える中で説明したり、説得したり、譲歩したりしてある結論を導くという問題解決型学習のスタイルをとる。これはこれまでの経験や知識・既習の英語表現を用いて自分の意志を相手に伝え、英語で話される内容を聞いて相互に理解を深めることを大切にする。 評価の工夫 ・毎時間の終末には、生徒がその時間内で実際に運用したターゲットセンテンスやつなぎ言葉などの英語を自己評価シートに記入することで、活動の見届けに生かす。 ・本時、抽出して見届けるターゲットペアの活動の様子をビデオに録画し、全体の場でよさや伸びを具体的に示す。 ・言語活動においてメッセージの授受に支障をきたしたり、文法的に明らかに修正を要すると考えられる際には、教師が的確にアドバイスを与える。
参 考 資 料	資料1：ヘルプシート(単元を通して使用「めざせ会話名人」) 資料2：自己評価シート：枠と生徒記入例(単元を通して使用「タスク活動評価表」) 資料3：学習シート(第1時使用「コンサートに行こう」) 資料4：学習シート(第2時使用「暗唱テスト評価表」) 資料5：学習シート：枠と生徒記入例(第3時基本コース使用「私の今週のスケジュール」) 資料6：学習シート(第3時発展コース使用「タスク活動にチャレンジ」)

2. 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
聞く評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動に積極的、意欲的に取り組んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> 初歩的な英語の情報を正しく聞き取ることができる。 初歩的な英語を、場面や状況に応じて適切に聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。
話す評価規準	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話すことができる。 初歩的な英語を用いて、場面や相手に応じて適切に話すことができる。 		
単元の評価規準	<p>(言語活動の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する言語活動で、間違えることを恐れず、積極的に自分のことを話している。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 不自然な間を作らないように対話を続けている。 	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> 強調や区切りを意識して、言いたいことを正確に伝えることができる。 <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手を誘う場面で丁寧な表現で勧誘したり、尋ねられたことや提案に対して、必要な情報を伝えたりして、適切に対話することができる。 	<p>(正確な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 強勢、イントネーション、区切りなどを手がかりにして、内容を正しく聞き取ることができる。 <p>(適切な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活をもとにした英語の内容を、大切な部分を手がかりにして聞き取ることができる。 	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> Would you like ~? の勧誘表現や待ち合わせの約束に用いる Where shall we ~? Let's meet at ~. などの使い方を身に付けている。 つなぎ言葉や言い換えなど会話継続のための表現を身に付けている。
学習活動における具体の評価規準	<p>コンサートに誘う場面での表現を用いながら、間違えることを恐れず、自分から進んで勧誘したり、応じたりしている。</p>	<p>教科書のモデル対話に一文付け加えたり、大切な言葉を強調したりするなど、英文をペアで工夫してロールプレイをすることができる。</p> <p>相手の勧誘に対して都合がつかない場合、譲歩したり丁寧に断ったり、別の提案を返したりするなど、適切に応じることができる。</p>	<p>対話をする際に、場所や日時などのキーワードを、話し手に聞き返して確認しながら、相手の都合を正しく理解することができる。</p>	<p>Would you like ~? の表現が、Let's ~ や Do you want to ~? よりも丁寧であることを理解している。</p> <p>都合の悪い場合には、That's not perfect. のような否定文ではなく Well, could you make it 5:00? のように別の提案をしたり、But thank you anyway. のように断った後に一文付け加えたりすることで会話を円滑に進められることを理解している。</p>

3 指導と評価の計画（全3時間）

時	ねらい	学 習 活 動		評価規準	評価方法	指導・援助
		基 本	発 展			
1	<p>単元終末の活動のイメージを理解するとともに、Would you like ~? Where shall we meet?などの意味・用法を理解することができる。</p>	<p>【導入】 帯活動（Imagination Game） TTによる対話を示す。 ・互いの週末の予定を話題にして、生徒の興味を喚起する。</p> <p>【展開】 学習課題の提示。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>教科書のスキットにオリジナルの英文を書き加えてみよう。</p> </div> <p>教科書のスキットを聞き取り、内容を理解する。 Would you like ~? や Where shall we meet? などの基本文を確認する。</p> <p>・At 4:30? や That's perfect! などの表現の使用場面を確認し、対話の自然なつながりを理解する。</p> <p>【終末】 ペアで本文の音読練習をする。 ペアでオリジナル対話文を書き加えて、暗唱の練習をする。（資料3） 評価シートで自己評価する。（資料2）</p>		エ-	<p>活動の観察 学習プリントへの記入状況</p>	<p>オリジナルの英文については、相手の提案に対して一考する場での Let's see. など、場面に応じたつなぎ言葉を、ヘルプシート(資料1)「雑談」のコーナーやタスク活動評価表(資料2)を参考にして適切に選び取るよう支援する。 作成の際、文法や語彙の明らかな誤りを指導する。ただしコミュニケーション上、大きな支障をきたさないものについてはここでは認めていく。</p>
2	<p>本文にオリジナルの英文を加えて模擬対話することを通して、大切な言葉を強調したり、聞き返して確認したりしながら、相手を意識した対話を行うことができる。</p>	<p>【導入】 帯活動（Imagination Game） TTによる対話を示す。 ・互いの目を見合いながら話したり、効果的なつなぎ言葉を多用しながら対話を続けたりする様子を示す。</p> <p>【展開】 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>伝えたい言葉を強調したり、対話の自然なつながりを大切にしたりしながらスキットの暗唱に挑戦しよう。</p> </div> <p>【終末】 対話練習の後、1ペアずつ JTE のところへ行き、パフォーマンステストを受ける。 評価シートで自己評価する。</p>		イ- ウ-	<p>面接法 ・活動はペアの形態をとるが、評価は個別で行う。 （資料4）</p>	<p>暗唱に不安をもつ生徒には、キーワードのみが記されたメモを活用することをアドバイスし、原稿に頼らない習慣を大切にさせていく。 教師の一人が試験官となり、別の教師が練習の机間指導をする。その際、特に単調な読みに終始している生徒には、どの言葉を特に強調したいのかを声をかけて確認する。</p>

3 本 時	<p>ペアで週末の計画を立てるために、人を誘ったり、交渉したりする表現や、それに応じる表現を活用し、対話を続けることができる。</p>	<p style="text-align: center;">基本コース</p> <p>【導入】 帯活動 (Imagination Game) 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">週末を友達とおもいきりエンジョイしよう！</div> <p>ターゲットセンテンスの確認</p> <p>【展開】 《タスク活動の準備》(資料5) タスク活動の対話が完結するまでの過程を3段階のステージに区切り、場面に合った表現をペアで一つずつ練習する。 別のペアでタスク活動に取り組む。</p> <p>【終末】 抽出ペアが発表する。</p> <p>自己評価カードに、本時実際に運用した表現を記入する。</p>	<p style="text-align: center;">発展コース</p> <p>【導入】 帯活動 (Imagination Game) 学習課題の提示</p> <p>ターゲットセンテンスの確認</p> <p>【展開】 《タスク活動の取り組み》(資料6) 学習シートを黙読し、タスクの内容を理解する。 ペアでタスク活動に取り組む。 沈黙が続いた場面を取り上げ、全体で適切な表現を考え合う。</p> <p>【終末】 抽出ペアが発表する。</p> <p>自己評価カードに、本時実際に運用した表現を記入する。</p>	ア - イ -	<p style="text-align: center;">(ターゲットペアを)録画</p> <p>観察、学習プリントへの記入状況</p>	<p>英語での表現が困難な生徒には、フレームやモデル文が記されたシートを示しながら支援する。(資料1)</p> <p>さらに、文の生成でつまづいている生徒には、下線部を変えることで利用できるフレームを与え、必要に応じて活用させる。</p> <p>タスクシートは習熟の程度を考慮し、コースによって様式を変える。ただし共に英文を一切記載しない。(資料5・6)</p>
-------------	---	--	--	------------	--	---

4 単位時間の授業展例

(1) 本時のねらい

・ペアで週末の計画を立てるために、人を誘ったり交渉したりする表現やそれに応じる表現を活用し、予定を決定することができる。

(2) 本時の位置

3 / 3時

(3) 展開案

過程	< 基本コース >		< 発展コース >				
	指導・援助	評価について	学習活動		指導・援助		
導入	単語レベルのヒントについても大いに認めながら、日本語を用いずに取り組ませる。	ゲームを行った後、運用したヒントの交流を全体の場で行い、表現の工夫や意欲的な取組の姿を認める。	<p>帯活動 (Imagination Game) を行う。《それぞれ別の教室で》</p> <p>A: It's a kind of fruit. Its color is red. B: Let me see...Strawberry? A: No. Aomori is famous for the fruit. B: I see. Apple. A: That's right.</p>			ゲームを行った後、運用したヒントの交流を全体の場で行い、表現の工夫や意欲的な取組の姿を認める。	ヒントを文レベルでより多く表現できるよう指導する。また交流の場での積極的な発言を促す。
展開	Would you like ~?などのターゲットセンテンスをフラッシュカードで示す。その際にキーワードのみを紙で覆いながら、全ての生徒が確実に発話できるようになるまでリーディング練習を繰り返す。	それぞれのステージで意図的にペアを抽出し、表現の適切さや対話を続けようとする姿のよさを価値付ける	<p>学習課題の提示</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">週末を友達とおもいきりエンジョイしよう！</p>			Would you like ~?などのターゲットセンテンスの定着を図るために、キーワードのみをフラッシュカードで示す。生徒がそれを見て確実に発話できるようにまでリーディング練習を繰り返す。	相手の提案内容が自分の都合と合わない状況で安易に同意せず意志を伝えたり、不明確な点をきちんと確認したりして対話が進められているかを評価する。
閉	カレンダーの中にインフォメーションギャップを設けた2種類のシートを配布する。シートには英文を記載しない。	相手の提案内容が自分の都合と合わない状況で安易に同意せず意志を伝えたり、不明確	<p>本時、活用したい表現とコミュニケーションの継続に有効な表現について整理する。</p> <p>《タスク活動の準備》 【1st Stage】 ・ Are you free ~? How about ~? を効果的に使い、互いのスケジュールを確認し合い、都合のよい日を決める。</p> <p>【2nd Stage】 ・ Would you like ~? I want to ~. を効果的に使いながら行き先を決める対話に慣れる。</p>	<p>本時、活用したい表現とコミュニケーションの継続に有効な表現について整理する。</p> <p>《タスク活動の取り組み》 【場面】 (資料6) 「週明けの月曜日、まだ何となく遊び足りないと感じているところへ友人の さんが登校してきました。」 シートA(タスク)</p> <p>音楽好きなあなたは、福山拓哉の大ファンです。しかも今度の日曜日は SMOP がアール</p>	<p>タスク活動に不慣れな場合は、ワークシート配布後にやや長めの時間を与え、メモ程度の整理をさせた後、対話を開始する。</p> <p>インフォメーションギャップを設けた2種類のシートには英文を一</p>		

終	<p>沈黙が続くなどの場合は、途中で活動を止めながら一段階ずつ進めていく。</p> <p>英語での表現が困難な生徒には、フレームやモデル文が記されたシートを示しながら支援する。(ヘルプシート)</p> <p>さらに、文の生成でつまずいている生徒には、下線部を変えることで利用できるフレームを与え活用させる。</p>	<p>な点をきちんと確認したりして対話が進められているかを評価する。</p> <p>ア - イ -</p> <p>(ターゲットペアの観察・録画)</p> <p>また、すべての生徒に活動後に実際に運用できた表現をカードに記入させその内容を評価する。</p> <p>(学習プリントへの記入状況 資料5)</p>	<p>・ペアでインフォメーションギャップを設け、交渉の練習をする。</p> <p>【3rd Stage】</p> <p>・When and where shall we meet? Let's meet in front of ~. を効果的に用いながら待ち合わせの約束をする。</p> <p>スクランブルの形態で、別のペアと対話活動をする。(タスク活動)</p> <p>基本コース用のワークシートを使用する。(資料5)</p> <p>抽出ペアが発表する。</p>	<p>でコンサートを開きます。何とか親友の さんを誘って行きたいのですが・・・。</p> <p>シートB(タスク)</p> <p>映画好きなあなたは、大ヒット映画『アトリックス3』の上映が待ち遠しくてたまりません。封切りの日曜日には、何とか親友の さんを誘って行きたいのですが・・・。</p> <p>学習シートを黙読し、タスクの内容を理解する。</p> <p>ペアでタスク活動に取り組む。</p> <p>抽出ペアが発表する。</p>	<p>ア - イ -</p> <p>(ターゲットペアの観察・録画)</p> <p>また、すべての生徒に活動後に実際に運用できた表現をカードに記入させ、その内容を評価する。</p> <p>(学習プリントへの記入状況 資料6)</p>	<p>切記載しない。</p> <p>英語での表現が困難な生徒には、フレームやモデル文が記されたシートを示しながら支援する。(ヘルプシート)</p> <p>表現に詰まり、対話を進めることができない場面を捉え(録画)活動を途中で中断し、VTRを見ながら全体で適切な表現を考え合う。</p>
末	<p>ペアの意図的抽出</p> <p>・勧誘、交渉やそれに応じる表現が適切に活用され、週末の予定が決定できた対話を把握しておき、全体に発表する場を設け、価値付ける。</p>	<p>・勧誘された内容が自分の希望と異なった場面で、どのように応じて状況を決定していったのかに注目させ、表現の適切さを認める。</p>	<p>A: Are you free next Sunday? B: Yes, but why ? A: Would you like to go to the movie? B: <u>Movie ? Let's see... Last week I went.</u> <u>I want to go to the concert.</u> I have two tickets of SMOP. A: Oh, really? I'm a fan. Sounds nice! B: Would you like to go with me? It starts at 6:00 PM. A: Yes, I'd love to. When and where shall we meet? B: Let's meet in front of the station at 4:00. Is that OK? A: <u>At 4:00? Well, could you make it 5:00?</u> B: That's OK. See you then.</p>	<p>自己評価カードに、本時実際に運用した表現を記入する。 (資料2)</p>	<p>・勧誘された内容が自分の希望と異なった場面で、どのように応じて状況を決定していったのかに注目させ、表現の適切さを認める。</p>	<p>ペアの意図的抽出</p> <p>・勧誘、交渉やそれに応じる表現が適切に活用され、週末の予定が決定できた対話を把握しておき、全体に発表する場を設け、価値付ける。</p>

5. 評価の実際と個に応じた指導事例
(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

(イ -)

相手の勧誘に対して都合がつかない場合、譲歩したり、丁寧に断ったり、別の提案を返したりするなど、適切に応じることができる。

(2) 評価の実際

評価の方法

活動の観察 (タスク活動での評価)

- ・ペア練習の場やスクランブル活動での交流の場において、個別に机間指導する中で観察、支援を行った。
- ・少人数指導の形態をとったため、一人の教師が見届けるペアの数は8～9人となり、ターゲットを4ペア程度に絞ることで、2時間を要してすべての生徒の様子を見届けることができた。
- ・タスクシートには、意図的に「双方の願いのズレ」が設定されているため、各ペアにおいて上記の評価規準にある状況が必然的に生まれる。その場面を特に集中的に観察することで評価の効率化を図った。(資料5・6)
- ・長い沈黙が生じた際には、表現と使用の場面が整理された「ヘルプシート」を教師が提示し、その場面で有効と思われるセンテンスを指で示し、対話が再開するきっかけを与えた。活動中にこのシートを生徒が常備することは、安易に文字に頼る姿を生むことにつながると考え、活動中はシートに頼らないように指導した。(資料1)
- ・活動の様子をビデオに録画することを試みた。特に変容を見届けたいターゲットペアに絞った。つなぎ言葉を用いるなど不自然な沈黙をせず対話を続けようとする姿のよさや、沈黙の後、何とか英語を絞り出し、「交渉」が成立し喜びに沸くペアの様子などを、その時間内で全体に広げることができた。ただし、カメラを向けられることや全体の場での提示に抵抗を示す生徒も見られ、この方法の頻度を上げて慣れさせる必要を感じた。

ワークシートの記述状況

- ・机間指導による観察や抽出ペアの発表のみでは、断片的な見届けに終わる。そこで授業の終末に活動で実際に運用した対話表現をシートに書かせた。ただし、その際には「待ち合わせの時刻と場所を決める場面について書く」など、記入を限定することで生徒の負担の軽減と時間の効率化を図った。また発話の跡を残すことが目的であるため正確な spelling は求めず、場合によってはカタカナ表記も認める。(資料5) 自己評価シートにも、毎時間使用した「つなぎ言葉」を選んで塗りつぶすコーナーを設けた。これにより分析的累積的な評価が可能となった。(資料2)

評価の決定

- ・相手からの誘いや応答が自分の意に反した場合や何かの問いかけに、沈黙したり安易に妥協することなく

Sorry, I have other plans. How about next Sunday ?

It sounds nice. But I want to play tennis. What do you think ?

Well...thank you anyway.

などの表現を活用しながら対話を進めていき、OK, this time I'll go with you.などの譲歩の場を経て最終的に予定が立てられれば「おおむね満足できる」状況と判断した。より自然で即応的な対話を目指し指導に当たった。

(3) 個に応じた指導の実際

- ・「おおむね満足できる」状況と判断されない生徒が生まれる要因を次のように考え、それぞれの学習状況に応じて以下のような指導・援助を行った。

ア) 場面が理解でき、伝えたい思いもあるが、既習の内容の定着が十分でなく、適切な語句が思い浮かばないため、スムーズに対話へと発展させられない生徒。

《具体的な指導事例》

基本コースのA子とB子との最初の対話から

A子: Hello.

B子: Hello.

A子: Are you free next Saturday ?

B子: No. (やや沈黙)

A子: Are you free next Sunday ?

B子: Yes. I'm free.

Are you ~?が唐突であるため、ヘルプシート(資料1)の挨拶後の表現を示し、より自然な対話を促した。

シートの "I'm sorry, I'm busy then." を紹介し、丁寧な言い回しに気づかせた。

A子: I want to go to Disneyland. Would you like to come with me?
 B子: (やや沈黙) Sounds nice.
 A子: Is that OK?
 B子: Yes, I'd love to.

実際はB子の希望は映画を観ることであったが、相手の主張に妥協したため、シートの“**But I want to play tennis.**”の文を紹介し、交渉を進めた。

基本コースのB子の授業終末の対話(スクランブル活動)から

C男: **Hi: How are you?**
 B子: Fine! And you?
 C男: I'm happy. I have two tickets for SMAP concert.
 B子: SMAP concert? Really?
 C男: Yes. Are you free next Sunday?
 B子: Well... I'm sorry, I'm busy.
 But I don't want to help Mother.
 C男: Would you like to come with me?
 B子: Yes. Let's go!
 C男: When and where shall we meet?
 :
 :

聞き返しなどのつなぎ言葉が使われ、対話が自然な形で進められていった。

予定が入っていたが、迷ったあげくそれをあえてキャンセルして相手からの提案を受け入れた。**But I don't ~.**の文は別の仲間が用いていた表現を取り入れたものであった。

イ) 失敗を恐れ、原稿を見ないで話すことに対して強い抵抗を感じている生徒。

《具体的な指導事例》

- ・まずベースとなる英文(本単元ではスキット)を原稿に頼らずに話せるよう繰り返し指導を重ねた。その際丸暗記を試みさせるのではなく、メッセージの伝達上、欠かせないキーとなる単語やフレーズを確認し、メッセージの流れを覚えるよう促した。その結果、原稿の言葉を忘れても何とか話し続けようとする姿が増え、全く話せなくなってしまう生徒は随分減った。
- ・黒板にターゲットセンテンスを示す際に、意味伝達上のキーワードをマスキングし、見せたり隠したり、別の言葉に移動したりするなど変化をつけながらリピートさせることで特に印象づけ、大切な語を落とさず話す力を鍛えたいと考えた。また著しく読む力が不足している生徒には、下記のようなモデルスキットを聞きながら練習させる時間を多く確保した。その際、スピード調節機能を備えた機器を準備し、徐々に自然な速さに近づけることで、抵抗感が少なくなるよう配慮した。

モデルスキットの例

Yumi: I have two tickets for the rock concert this Sunday.
 Would you like to come with me?
Mark: I'd love to.
 Where shall we meet?
Yumi: Let's meet in front of the station at 4:30.

6. 参考資料

【『表現』の観点から出題した単元テストからの抜粋】

あなたは明日の日曜日、久しぶりにのんびりと大好きな読書でもしようかと思っています。待ちに待ったハリーポッターの続編が手に入ったのです。
 そんなところへ親友の久美さんから、何やらお誘いの電話がかかってきました。さて、あなたならどうしますか? 対話の空所に英文を書き入れなさい。なお()にはそれぞれ2文ずつ書きなさい。

Kumi: What plans do you have for tomorrow?
You: ()
Kumi: Oh, I see. I'm going to Takayama to ski. I know you like skiing.
 So would you like to come with me? Tomorrow will be wonderful day!
You: ()

《採点基準》 伝えたいメッセージがよくわかり、文法上の誤りがない。・・・一文につき3点
 伝えたいメッセージはわかるが、文法上の誤りがある。・・・ " 2点